

2023 アートマイル国際協働学習プロジェクト 報告書

日本学校名 [茨城県立下妻第一高等学校附属中学校] 担当教諭名 [瀬田 登広] (2年1組 40名)

相手国・地域 [台湾]

海外学校名 [Lu Jiang International School] 担当教諭名 [Rita Huang]

■実施教科・時間数について教えてください。

	教科	単元名	時間数
アートマイルに関連した 実施教科・時間数	総合的な学習の時間	国際探究	22
	英語	海外に向けて手紙を書こう	3

■作品に込めた想いについて教えてください。

題 (テーマ)	私たちの地域の輝かしい未来のために
メッセージ (相手と想いを合わせて 世界に発信したいメッセージ)	地域の交通安全と交通システムを改善するために、実現可能な解決方法を選ぶことで、人々が文化遺産を守り、持続可能な都市やコミュニティに住むことができる未来を創造していこう。



■今回の取り組みの成果と課題はどういった点でしょうか？

成 果	課 題
相手校との交流を通して、生徒たちは異文化理解を深めるとともに、地域や自国について見つめ直し、よりよい社会を築いていこうとする態度が身に付いた。また、自分たちの想いや考えを英語で表現したことで、英語発信力を高めることができた。	本校にとって、新規の事業だったために、当初の計画通りには学習内容を進めることができなかった。相手校の先生のリードのもと、交流を継続することができたが、本校側からも生徒の学習の様子や交流の提案を積極的に発信できるとさらに良かった。

■アートマイルに取り組む前と比べて相手の国・地域や世界に対して意識はどう変わりましたか？

児童生徒の意識の変化	教師の意識の変化
住んでいる場所は異なっても、国際人として、SDGs17の目標にある共通の課題を協働により解決しようとする意識が高まった。また、ものの見方や考え方、文化や習慣などの違いを超えて、どの国の人々とも尊重し、理解して接しようとする姿勢がどの生徒にも見られるようになった。	初めて海外の学校と交流することに当初は不安があったが、実際に交流を通して、子供たちの未来を思う気持ちは国を越えても変わらないことに気付き、やりがいを感じた。また、相手の国の情勢や歴史的背景により関心をもつようになり、より広い視野から物事を捉えるようになった。

■主な活動の流れを教えてください。

場面	時期	活動内容	児童生徒の反応	実施教科等
調べ学習 テーマ学習	5月 6月	・協働学習を行う海外の相手校について調べる。 ・SDGsの17の目標について知り、課題を捉え、相手校と協働学習するテーマを相談する。	どんな些細なことでもSDGsの取り組みに繋がっていることを知り、自分たちにどんな事ができるかをつなげて考えることができていた。	総合4
共有 相手と意見交換	7月 ～ 9月	・英語での自己紹介や絵葉書交換の交流を通して、理解を深める。 ・学習テーマについて調べたことをお互いに英語で伝え合い、相手校との類似点や相違点を見つける。	改めて自分たちの地域のことについて紹介する際に、自分たちが地域のことをあまり知らないということに気付いていた。一方で、絵葉書作りでは自分の地域への理解を深めていた。	総合4 英語3
融合 メッセージ作成	10月 11月	・課題に対して、自分たちはどういう未来を創りたいのか、自分たちに何ができるのか相手校と議論する。 ・双方の想いを合わせ、世界に発信するメッセージを英語で作成する。	改めて自分たちの地域の交通インフラの課題を知り、日本と台湾の交通システムの違いから、どうしたらお互いの地域がより良くなるのかを考えることができていた。	総合4
創造 壁画制作	12月 1月	・自分たちの想いやメッセージをどのように壁画に描いて表現するのか、相手校と英語で議論する。 ・壁画から自分たちの学習の成果がどのように表れているか読み取る。	何を描けば自分たちの想いや日本の良さやが分かるのか、それをどのように描けばより魅力が伝わるのかを考えながら壁画制作を行うことができていた。	総合6
評価 振り返り 自己評価	2月 3月	・これまでの学習の成果を英語でまとめ、相手校と共有する。 ・海外の学校との協働学習を通して、自分の考えや意識がどのように変わったか自己評価する。	直接オンラインで学習成果を伝え合うことができ、相手の国の文化だけではなく、相手の発表からよりよいプレゼンテーションの仕方なども学ぶことができていた。	総合4

■アートマイルでついた力について教えてください。

評価（5:とてもついた 4:ついた 3:どちらともいえない 2:あまりつかなかった 1:つかなかった）

学習目標・つきたい力	評価	教師がそう感じた場面と理由
異文化を理解する力	5	自分の地域を知ってもらうために、自国文化を改めて見つめ直すことができていた。また、相手校との交流を通して、文化や考え方が違うことを理解した上で、協働して学習を進めることができた。
主体的に考え行動する力	4	どうしたら相手にも自分たちの想いや考えが伝わるかを考え、自分たちで発表の仕方や英語の表現、壁画のデザインなどを工夫することができていた。
批判的に思考する力 (客観的・論理的視点)	4	課題に対して自分たちが考えた解決案を複数の視点から見つめ直し、よりよいものにしようとしていた。また、相手校の学習を参考に、自分たちの学習にも取り入れられる点はないか議論することができた。
多様な他者と対話・協働する力 (海外の相手と対話・協働)	5	オンライン交流の際には、質疑応答の場面で、相手校に質問を投げかけたり、自分たちのことについて自分たちの言葉で答えたりする姿が見られた。
想いを表現する力 (メッセージ作成・壁画制作)	5	自分たちがこれまで学習してきた取り組みをメッセージや壁画に表現することに苦労していたが、最後には伝えたい想いを整理し、まとめていったことで誰もが納得する制作を行うことができた。